

竜王中学校 学校関係者評価書

令和7年1月28日(火)

竜王中学校学校運営協議会作成

学校関係者評価（学校運営協議会の中で実施）

実施日：令和7年1月27日（月）

出席者：（学校運営協議会委員） 川口 優一 鷹野 秀樹 千野 雄広 伊藤 毅
（学校側） 坂本 公彦 林 健一郎 窪田 昌彦

I 学校側から提案された内容

令和6年度職員自己評価書、令和6年度生徒アンケート集計結果、令和6年度保護者アンケート集計結果（いずれもR5～R6を比較できるもの）

II 協議された主な内容

職員自己評価書及び生徒アンケート集計結果、保護者アンケート集計結果をもとに、学校の現状（成果と課題）や取り組み等について情報を共有・協議し、学校・家庭・地域の連携協力により学校運営の改善にあたる。

〈学校関係者評価書〉

I 全体評価

自己評価、保護者アンケート、生徒アンケートのいずれにおいても肯定的な回答が多く、肯定的評価が昨年度より増加した項目もあることから、総体的に学校運営が改善されていることがうかがえる。

個別の項目を見ると、以下の成果が見て取れる。

- ・教職員の自己評価において、多くの質問項目で肯定的評価が多かったこと。
- ・多くの質問項目において、職員・保護者・生徒の回答が同じ傾向にあり、三者が同じ課題意識を持っていると推察できること。
- ・あいさつを大事だと捉え、実践する傾向が維持されていること。

一方で、以下のような課題点が見られる。

- ・授業がわかると回答する生徒が減少傾向にあることから、職員の授業改善が必要であること。
- ・家庭学習に対する指導を行っているという回答する職員、自分で計画を立てて勉強をしているという回答する生徒が減少していることから、家庭での学習について、取り組ませる必要があること。
- ・生徒がスマホやタブレットに触れる時間が増加していることや、読書に取り組む生徒とそうでない生徒の両極化が進行している状況から、家庭学習も含め、家庭での過ごし方について保護者と課題点を共有し、改善を図る必要があること。
- ・職員の多忙化は改善傾向にあるものの、職員不足を原因とする業務集中がなおも課題となっているため、さらなる働き方改革が必要であること。
- ・不登校生徒の数は、個々の欠席数を見ると減少しているが、全体としての不登校者数は減少していないことから、より一層、個に寄り添った教育が必要であること。
- ・保護者アンケートの中で、学校にさらに改善を求める項目が多く見られたことから、まずは保護者への情報提供と課題共有・連携に努める必要があること。

II 個別の項目に対する意見

あいさつ活動に対する意見

- ・恥ずかしがって挨拶しない生徒が若干みられるものの、全体的にはよく挨拶をしてくれる生徒が多いと感じている。アンケート結果よりも多くの生徒が挨拶をしてくれている。今後も挨拶を大切にする指導を継続してほしい。

不登校の状況についての意見

- ・不登校生徒の様子をうかがうと、生徒のための居場所(ふれあい教室)をつくるなど、個に寄り添った指導をすることで、昨年度より長期の欠席者(ほとんど登校しない生徒)の数は減少しているが、総数として年間30日以上欠席者数は減っていない。昔と比べ、事情は様々あると思うが、今後も生徒の実情に応じた多様な対応(リモート授業や別室学習、週2～3日の登校、朝だけ登校など)を充実させてほしい。

部活動の地域移行についての意見

- ・他県では、学校部活動を廃止するという動きも出てきている。竜王中では若い先生方がやる気をもって部活動に従事していると聞き、とりあえずは安心したが、地域移行した場合、先生方が地域指導者に立候補するかどうかは未知数で、地域移行をすすめることに不安が残る。学校部活動を廃止しても、スポーツや文化活動を続けたい生徒は、どこかしらの活動団体を探して活動が続けられると思う。金銭的な事情や保護者送迎の問題で生徒の行き場がなくならないよう、今後の動向を注視したい。

行事についての意見

- ・合唱祭を参観したが、講師の先生の熱心な指導もあり、素晴らしい合唱が聴けた。竜王中の生徒は行事を通して育っていることがよくわかった。強歩大会がなくなってしまったことは残念だが、これからも、生徒の成長に必要な行事を大切にしながら、行事の精選を進めてほしい。

III 今後の課題として意識されたいこと

不登校への対応

- ・リモート授業が増え、個に寄り添った指導ができていることは喜ばしいが、学校は集団の中で様々な体験や学びを獲得する場であるという原則を大切にしてほしい。安易に個別の学びを選択した結果、かえって学校から足が遠のいてしまうことのないようにしてほしい。

働き方改革

- ・職員が不足する中、教育的成果をあげている様子を伺い、本当に先生方には頭が下がる思いで見ている。不登校生徒のための別室対応に多くの先生が積極的にあたってくれていることにも感謝したい。結果的に先生方の授業時数が圧迫され、多忙化が進んでしまうことを危惧している。大変だとは思いますが、心身ともに健康な状態で生徒の前に立てるように、働き方改革を進めてほしい。

